

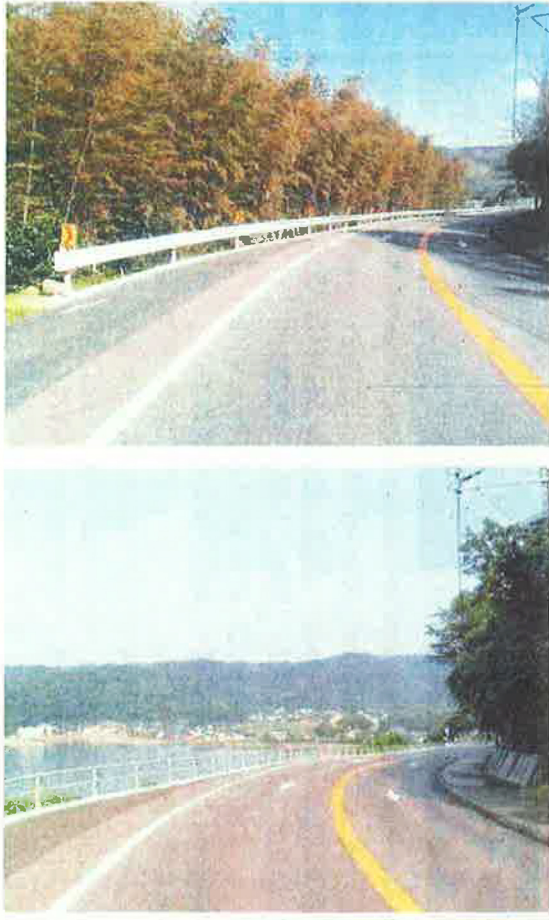
JR各社などが誘客に取り組み「おんせん県おおいたアスティネーションキャンペーン(DC)」(7~9月)に合わせて、県内の道路や公衆トイレの「化粧直し」が進んでいる。県は景観を確保するため、観光地に近い道路沿いの雑木の伐採や草刈りを例年より前倒しで実施。トイレは道の駅などの40カ所を改修した。細かな気配りで観光客のおもてなしにつなげる。

道路や公衆トイレ

景観化粧直し



県道路保全課によると、つながらる国道や県道など例年盆前にする草刈りなどの道路保全事業を6月中象。例年を上回る48路線が対象。各観光地に視界をふさぐ木を取り除



①沿道の樹木が視界を覆う国道213号②樹木の伐採やガードレールの更新などで景観が改善した豊後高田市堅木(いずれも県提供)

き景観を向上させたほか、ガードレールをパイプ式に変更させるなどの工夫を施した。中央線や路肩を分ける区間線も新しく引き直した。一部を除き、本年度当初予算で計上した約8500万円を充てた。

まな場所で大分に良い印象をもってもらいたい」と話す。トイレの改修をしたのは、県内の道の駅やフェリーターミナル、観光施設など。洋式化や温水洗浄便座の設置、ベビーチェアの新設などを実施した。県観光・地域振興課は快適に利用できるトイレを「おもてなしトイレ」と認証する制度を活用し、DCをはじめとする観光客への印象向上に役立てる考えだ。

(是永桂一)